

【金沢国税局長賞】

「税から生まれる『信頼』」

富山市立芝園中学校三年 唐崎 里桜

「救急車出動六百五万件 消防庁実態調査へ 有料化の布石」私が祖母の家へ行った時に見つけた新聞の記事である。安易に救急車を呼ぶ人が年々増加しているため、救急車を有料化するべきだという声が増えているということだ。

現在、救急車は私達が普段支払っている税金によって無料で利用することができる。このような例は救急車だけではなく、普段歩いている道や学校で必要となる教科書、パソコン、実験器具、体育用具、などでも活用されている。また、私の住んでいる地域では、0歳から中学三年生までの医療費が助成されている。しかし、それらを悪用し、自分だけに利益をつけようとする人が増えている、その事実には驚きを隠せなかった。そこから、私は、この記事の内容のような事例が増えるとうなってしまうのか、またこのようなこと以外にも似ている事例を身近でとらえ、考えたり、調べたりした。

まずは、あの記事のような事例が増えた場合、第一に考えられることは「救えるはずだった命」が救えなくなる可能性が高くなるということだ。救急車の要請があった場合、すぐに要請者のところまで行かなければならない、という状況であるため、患者の下へ行かない選択肢はないのだ。海外では、救急搬送をするかしないかは患者の意見に関わらず医師や救急救命士が判断し、患者はそれに従わなくてはならない。十年ほど前から日本でも救急搬送における優先値を決めて選別するトリアージが行われるようになった。しかし、海外と日本には、「患者の同意の有無」という大きな違いがあった。その違いを日本では「あたりまえ」と感じ、悪用する人が多いのだと分かった。救えない命が出てしまうのはもちろん、医師や看護師など医療に携わっている人へ、不要な労働を突きつけていることにもなると感じた。

次に、身近で感じた事例だ。みなさんは、教科書の裏側に「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」という文を見たことがあるだろうか。見たことがなくても、学校の先生や親から「大切に使おう」と言われたことがあるのではないか。このような教科書を折り曲げたり、わざと引きちぎったりする生徒を見かけたことがある。私たちと大人で結ばれた信頼が壊れる瞬間だとつくづく思う。

他の人に直接迷惑がかかっていなくても、信頼が切れるということに変わりはない。このような事例を通じて、税金によって救われる生活は大きいと感じた。

また、税金は大きな信頼によって成り立ち、活用されると分かった。今回調べたことやそこから考えたことを生かし、今の現状をよりたくさんの人々に伝えていきたい。